

# 経済・金融 フラッシュ

## 消費者物価(全国 15年5月) ～コア CPI 上昇率はゼロ近傍で推移も、幅 広い品目で値上げが続く

経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. コア CPI 上昇率はゼロ近傍の推移が続く

総務省が6月26日に公表した消費者物価指数によると、15年5月の消費者物価（全国、生鮮食品を除く総合、以下コア CPI）は前年比0.1%（4月：同0.3%）となり、上昇率は前月から0.2ポイント縮小した。事前の市場予想（QUICK集計：0.0%、当社予想も0.0%）を上回る結果であった。

消費税率の引き上げによって4月のコア CPI は0.3%押し上げられていたため（5月はほぼゼロ%）、その影響を除くと上昇率は0.1ポイント拡大したことになる。消費税の影響を除いたコア CPI 上昇率は15年入り後、ゼロ近傍の動きが続いている。

食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合は前年比0.4%（4月：同0.4%）、総合は前年比0.5%（4月：同0.6%）であった。

消費者物価指数の推移

(前年同月比、%)

	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合
14年 1月	1.4	1.3	0.7	0.7	0.7	0.3
2月	1.5	1.3	0.8	1.1	0.9	0.5
3月	1.6	1.3	0.7	1.3	1.0	0.4
4月	3.4	3.2	2.3	2.9	2.7	2.0
5月	3.7	3.4	2.2	3.1	2.8	1.9
6月	3.6	3.3	2.3	3.0	2.8	2.0
7月	3.4	3.3	2.3	2.8	2.7	2.1
8月	3.3	3.1	2.3	2.8	2.7	2.1
9月	3.2	3.0	2.3	2.8	2.6	2.0
10月	2.9	2.9	2.2	2.5	2.6	2.1
11月	2.4	2.7	2.1	2.1	2.4	1.8
12月	2.4	2.5	2.1	2.2	2.3	1.8
15年 1月	2.4	2.2	2.1	2.3	2.2	1.7
2月	2.2	2.0	2.0	2.3	2.2	1.7
3月	2.3	2.2	2.1	2.3	2.2	1.7
4月	0.6	0.3	0.4	0.7	0.4	0.0
5月	0.5	0.1	0.4	0.5	0.2	0.1
6月	—	—	—	0.3	0.1	0.2

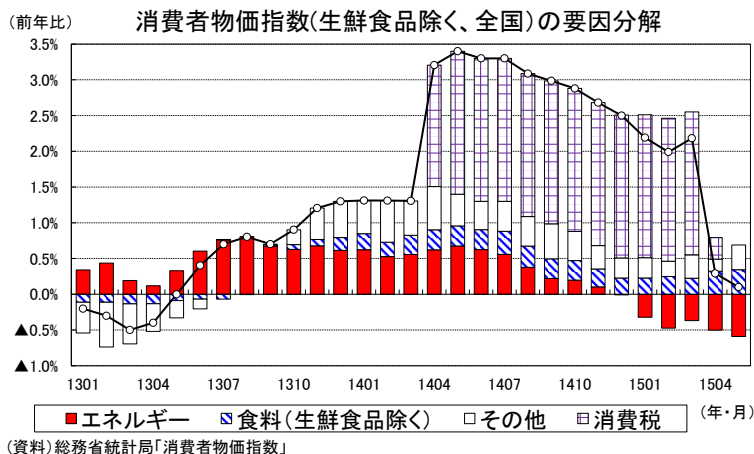
(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

コア CPI の内訳をみると、ガソリン（4月：前年比▲15.9%→5月：同▲15.2%）、灯油（4月：前年比▲21.6%→5月：同▲21.7%）の下落幅は前月とほぼ変わらなかったが、電気代（4月：前年比5.3%→5月：同0.5%）の上昇幅が大きく縮小し、ガス代（4月：前年比3.5%→5月：同▲1.1%）が下落に転じたことから、エネルギー価格は4月の前年比▲3.4%から同▲6.0%へとマイナス幅が拡大した。ただし、電気代、ガス代の下落幅拡大のほとんどは消費増税の影響一巡によるものである。

一方、原材料価格上昇の影響などから値上げが続いている食料（生鮮食品を除く）は、バター（前年比6.4%）、ヨーグルト（同4.0%）、チョコレート（同10.7%）、アイスクリーム（同11.5%）、コーヒー・ココア（同8.4%）、牛どん（同17.2%）などが高い伸びとなっている品目が目立つ。食料（生鮮食品を除く）の上昇率は3月の前年比0.9%から4月に同1.5%へと大きく高まった後、

5月も同1.6%と高止まりした（消費税の影響を除くベース）。

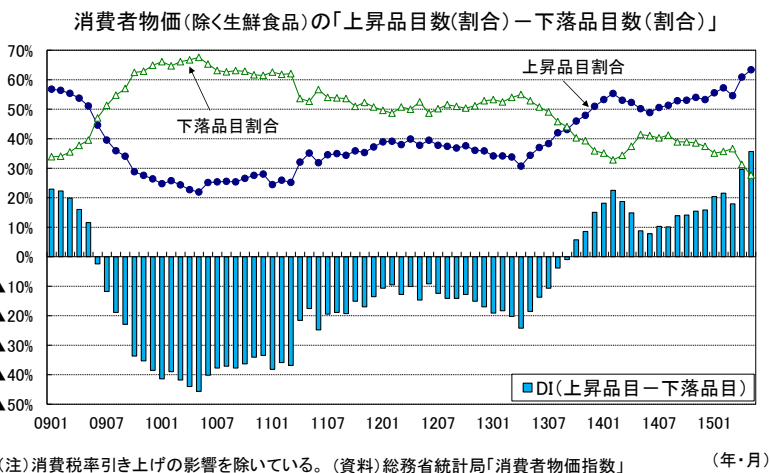
コアCPI上昇率を寄与度分解すると、エネルギーが▲0.59%（4月：▲0.50%）、食料（生鮮食品を除く）が0.34%（4月：0.32%）、その他が0.35%（4月：0.17%）であった（当研究所試算による消費税の影響を除くベース）。



## 2. 物価上昇品目数はさらに増加

消費者物価指数の調査対象524品目（生鮮食品を除く）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、5月の上昇品目数は332品目（4月は319品目）、下落品目数は145品目（4月は164品目）となり、上昇品目数が前月から増加した<sup>1</sup>。上昇品目数の割合は63.4%（4月は60.9%）、下落品目数の割合は27.7%（4月は31.3%）、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は35.7%（4月は29.6%）であった。

食料以外でも衣料、布団、トイレトペーパー、テーマパーク入場料、月謝類など、幅広い品目で値上げが行われている。コアCPI上昇率は前年比でゼロ近傍の動きが続いているが、品目数でみれば上昇品目数が下落品目数を大きく上回っており、物価上昇圧力の強さを示している。



## 3. コアCPIは夏場にかけて下落も、年末までには再びプラスへ

15年6月の東京都区部のコアCPIは前年比0.1%となり、上昇率は前月から0.1ポイント縮小した。事前の市場予想（QUICK集計：0.1%、当社予想は0.0%）通りの結果であった。

ガソリン（5月：前年比▲15.8%→6月：同▲13.2%）、灯油（5月：前年比▲18.3%→6月：同▲16.0%）の下落幅は縮小したが、電気代（5月：前年比▲0.3%→6月：同▲3.6%）の下落幅が拡大し、ガス代（5月：前年比0.3%→6月：同▲3.3%）が下落に転じたため、エネルギー価格が5月の前年比▲2.7%から同▲5.1%へとマイナス幅が拡大した。

一方、食料（生鮮食品を除く）は、菓子類（5月：前年比3.3%→6月：同3.6%）、調理食品（5月：前年比1.3%→6月：同1.6%）、外食（5月：前年比1.6%→6月：同1.9%）などを中心に、5月

<sup>1</sup> 上昇品目数、下落品目数は消費税率引き上げの影響を除いてカウントしている。具体的には、14年4月からの消費税率引き上げの影響は2.86%（=（108-105）÷105）となるため、課税品目については3.0%以上を上昇、2.7%以下を下落、2.8、2.9%を横這いとしている。

の前年比 1.2%から同 1.6%へと伸びがさらに高まった。

東京都区部のコア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が▲0.35%（5月：▲0.18%）、食料（生鮮食品を除く）が 0.33%（5月：0.25%）、その他が 0.12%（5月：0.13%）であった。

電気代、ガス代の値下げはこれから本格化するため、夏場にかけてエネルギー価格の下落率はさらに拡大し、コア CPI 上昇率に対する寄与度は▲1%程度となることが見込まれる。このため、コア CPI 上昇率は7月にはマイナスに転じることが予想される。

ただし、かつてに比べて企業の値上げに対する抵抗感は小さくなっており、原材料価格の上昇に対応した価格転嫁はすでに幅広い品目で行われている。物価上昇品目数が下落品目数を大きく上回っていることは、基調として物価下落が加速する状況にはないことを示したものといえよう。秋以降はエネルギー価格の下落率が縮小に向かうため、コア CPI 上昇率は年末までは再びプラスとなり、16年度入り後には1%台まで伸びを高めることが予想される。

---

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。